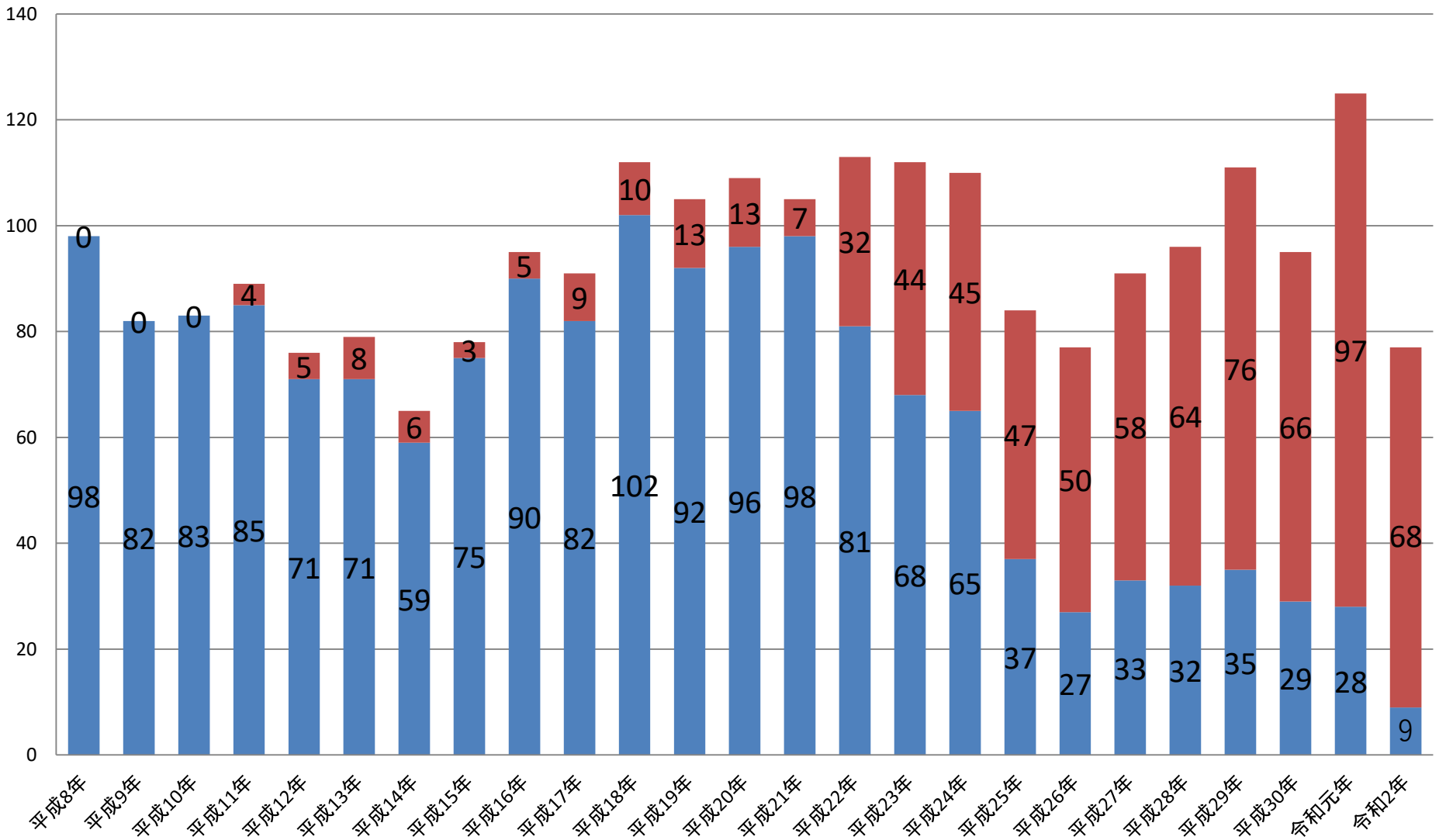


1. 臓器移植対策について

臓器提供の件数の推移(年別)



令和2年12月31日現在

- 脳死(提供可能臓器) 心臓、肺、肝臓、膵臓、腎臓、小腸、眼球(角膜)
- 心停止(提供可能臓器) 膵臓、腎臓、眼球(角膜)

(公社)日本臓器移植ネットワーク資料より作成

臓器提供の意思の記入状況

	有効回答者数	記入している	記入していない	わからない
	人	%	%	%
平成25年8月	1,855	12.6	85.1	2.3
平成29年8月	1,911	12.7	85.2	2.0

- （注）内閣府が平成25年8月に行った「臓器移植に関する世論調査」（調査対象：全国20歳以上の者3,000人／回収率61.8%）及び平成29年8月に行った「移植医療に関する世論調査」（調査対象：全国18歳以上の者3,000人／回収率63.7%）における「あなたは、臓器を提供する・しないといった意思を、いずれかの方法で記入していますか、それとも記入していませんか。」という質問に対する回答を集計したものである。

（臓器提供に関する意思を記入していない主な理由）

理由	平成25年8月	平成29年8月
自分の意思が決まらないからあるいは後で記入しようと思っていたから	27.4%	25.4%
臓器提供や臓器移植に抵抗感があるから	17.6%	19.9%
臓器提供には関心がないから	15.7%	17.0%
臓器提供やその意思表示についてよく知らないからあるいは記入の仕方がよくわからないから	12.5%	12.1%
臓器提供するかどうかは家族に任せたいから	8.9%	11.2%
臓器提供や臓器移植には肯定的だが意思表示はしたくないから	8.2%	9.2%

(1) 年間を通じた取組

臓器提供の意思表示について考えるきっかけとして、次のような取組を実施。

- 中学生向けの啓発のためのパンフレットの作成、配布
- 免許センターでの意思表示に関する動画の上映、リーフレットの配布



中学生向けパンフレット



リーフレット

(2) 臓器移植普及推進月間(毎年10月)の取組

○「グリーンリボンキャンペーン」の実施

- ・全国各地の著明なランドマーク・建物をグリーンにライトアップ
- ・東京メトロの協力による地下鉄駅構内のポスター掲示
(令和2年10月14日(水)～20日(火))

○イベントの開催

- ・臓器移植推進国民大会
令和2年度は中止。
令和3年度、長崎県で開催予定。



(3) 臓器移植に関する教育の展開

○授業実例集の作成 : 各学校や各教諭が行っている授業の実例集、またその活用法についての解説書を作成

○研究会・セミナーの開催 : 事例集等の学校での活用法に関する研究会やセミナーを定期的開催

院内体制整備事業

令和3年度予算案
104百万円(84百万円)

Aプラン	Bプラン	Cプラン
脳死判定 全くなし	脳死判定の準備が整っている 一部に不足有り	心停止・脳死下臓器提供の 経験有り
3施設	44施設	45施設
選択肢呈示・意思表示確認 ができる体制	申し出があった時に 臓器提供可能な体制	常に選択肢呈示、臓器提供 可能な状態を維持

事業内容

院内各種委員会の設置指導、マニュアル整備
外部講師の紹介、検査シミュレーション、研修会の開催

実施施設数

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
16	17	65	84	88	112	92



JOTコーディネーター、都道府県コーディネーターが支援

拠点施設

〈要件〉

- ✓ 脳死判定できる医師が常勤
- ✓ 脳波測定できる検査技師が常勤 等



「医療機関が患者による臓器提供意思表示の有無を把握する取組」より早いタイミング、より幅広い対象に対して、任意の方法により患者による臓器提供意思表示の有無を把握する。

速やかな支援

「臓器提供が行われる可能性がある事例に関し、関係者内の早期かつ漏れのない情報共有を促す取組」

患者情報

器質的脳障害により
深昏睡(GCS3)を認める者

連携施設



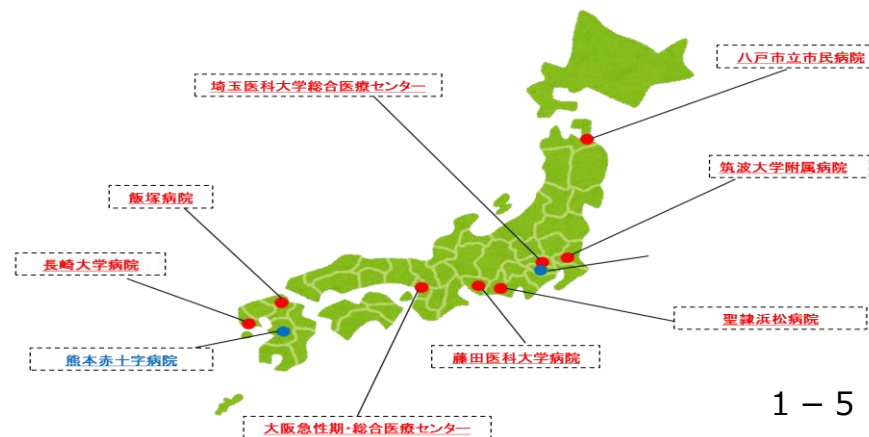
〈要件〉

- ✓ 院内体制整備支援事業を活用して院内体制充実
- ✓ 院内コーディネーターを配置

- ◎連携施設への助言・支援〈通常〉
- ✓ 連携施設の体制充実への助言
 - ✓ 連携施設と定期的な合同カンファ（提供事例の共有等）
 - ✓ 臓器摘出時全身管理を行う麻酔科医の育成
- 〈連携施設での臓器提供時〉
- ✓ 進行管理の助言
 - ✓ 脳死判定医（技師）の派遣
 - ✓ 臓器摘出時全身管理を行う麻酔科医の派遣
- 〈拠点施設での臓器提供時〉
- ✓ 連携施設から関係者の受け入れ

令和2年度 連携体制構築事業 拠点施設 10施設

● 令和元年度より継続施設
● 令和2年度新規参加施設



2. 造血幹細胞移植対策

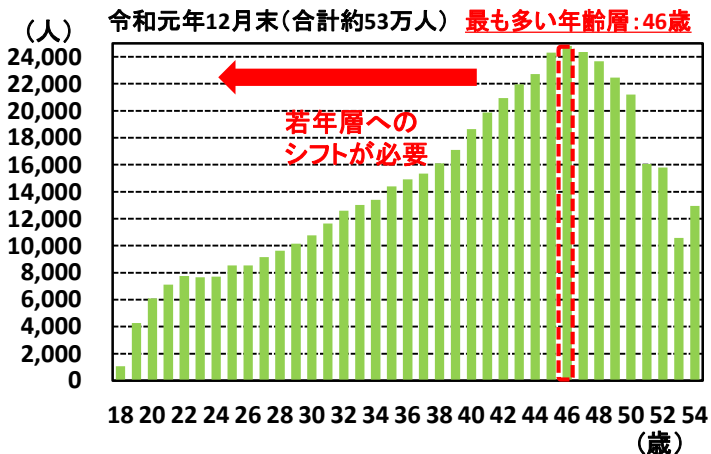
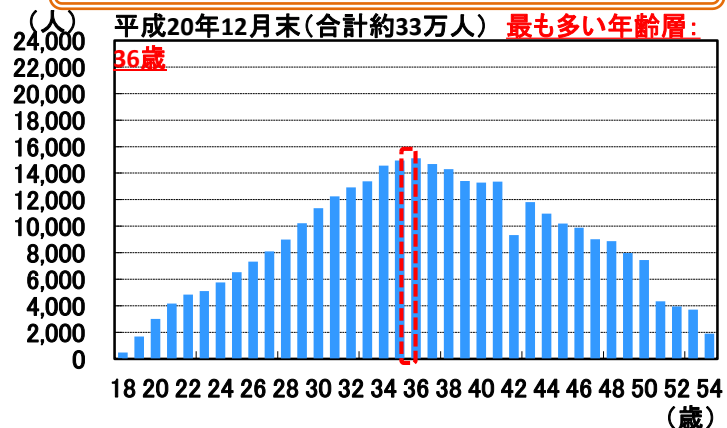
2. 造血幹細胞移植対策について

骨髄バンクドナー登録者数の推移

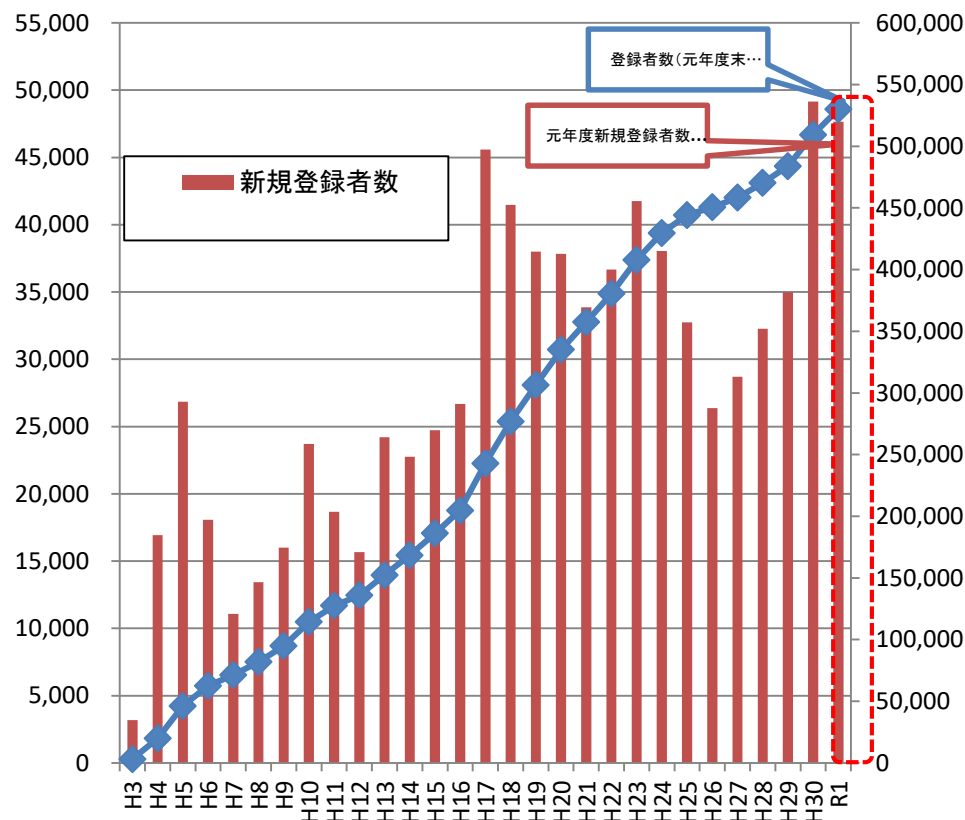
○骨髄移植(末梢血幹細胞移植)のドナー登録者は増加しているが、年齢層をみると、高齢化の傾向が顕著である。

⇒ 今後は、骨髄等の採取まで繋がる主に若年層を中心に働きかけを進めることが極めて重要。

年齢別ドナー登録者数の推移

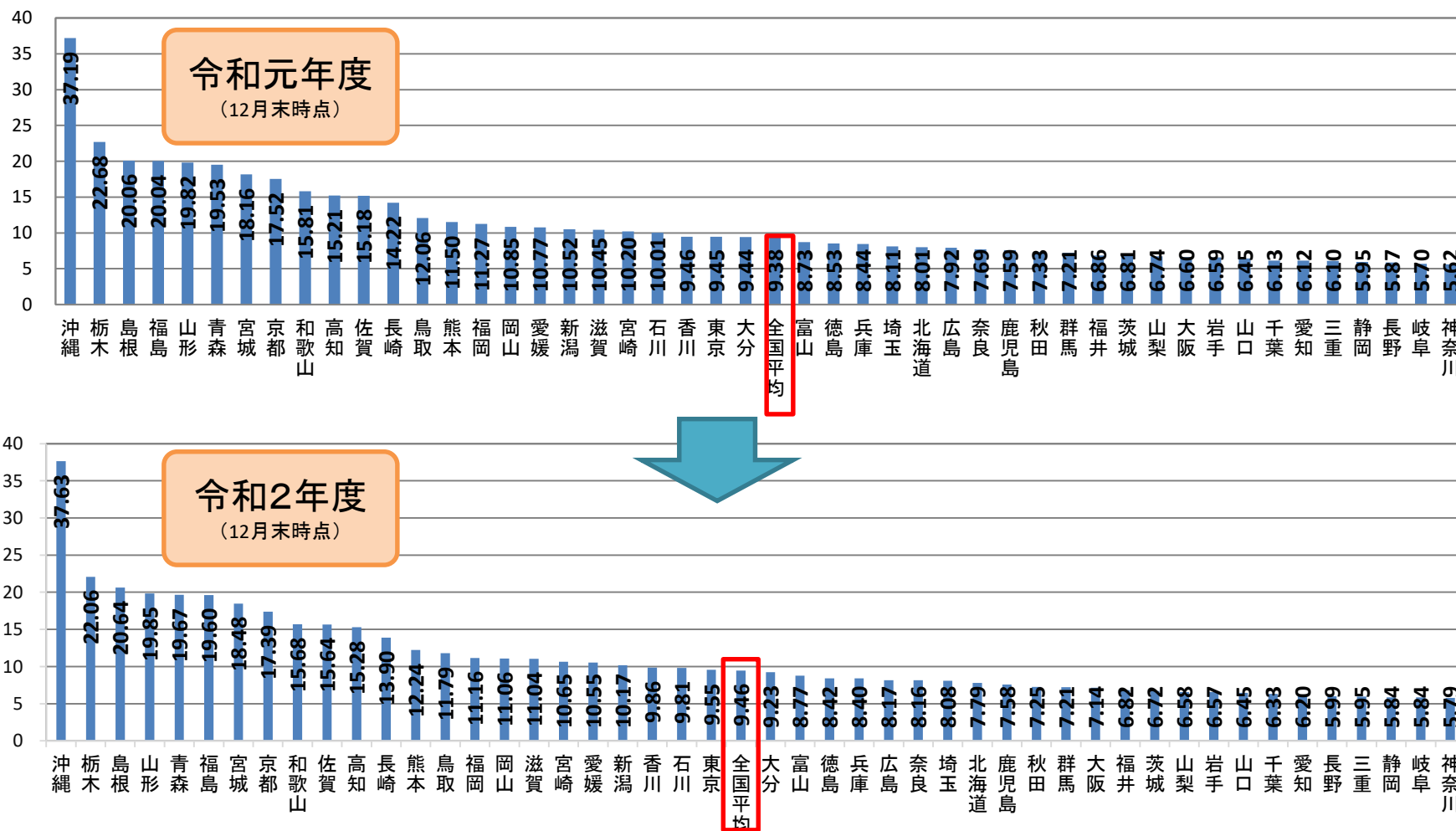


骨髄バンクドナー登録者の推移



都道府県別対象人口1,000人あたりにおけるドナー登録者数～昨年度との比較～

全国平均値は令和元年度を上回っているが、依然として、各都道府県においてばらつきがある。引き続き積極的なドナー登録の推進をお願いしたい。



「骨髄バンク推進連絡協議会」の設置

- 地域における骨髄バンク事業の推進等を目的とした会議体として、日本骨髄バンクから各都道府県に対し「骨髄バンク推進連絡協議会」の設置をお願いしているところ。

(参考) 移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進を図るための基本的な方針（平成26年厚生労働省告示第七号）

第四 その他移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関し必要な事項

一 関係者の連携

国、地方公共団体、骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者、臍帯血供給事業者、造血幹細胞提供支援機関及び医療関係者は、場合に依りてボランティア等の協力も得つつ、移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進を図るため、相互に連携を図りながら協力する。

- 骨髄バンク推進連絡協議会を設置しており、かつ1年以内に会議を実施した自治体は、全国で33道府県（令和元年度末現在）。
- 各都道府県においては、協議会の設置及びweb等を活用した定期的な開催に引き続きご協力いただき、効果的な普及啓発や積極的な骨髄等提供希望者の募集及び登録の推進をお願いしたい。

都道府県	設置状況	都道府県	設置状況	都道府県	設置状況	都道府県	設置状況	都道府県	設置状況
北海道	○	埼玉県	○	岐阜県	○	鳥取県	○	佐賀県	—
青森県	—	千葉県	○	静岡県	○	島根県	○	長崎県	—
岩手県	—	東京都	—	愛知県	○	岡山県	○	熊本県	—
宮城県	—	神奈川県	○	三重県	○	広島県	○	大分県	○
秋田県	—	新潟県	○	滋賀県	○	山口県	○	宮崎県	○
山形県	○	富山県	○	京都府	○	徳島県	○	鹿児島県	○
福島県	—	石川県	○	大阪府	○	香川県	○	沖縄県	—
茨城県	○	福井県	—	兵庫県	○	愛媛県	○	「○」:設置済み 「—」:未設置	
栃木県	○	山梨県	—	奈良県	○	高知県	○		
群馬県	—	長野県	○	和歌山県	○	福岡県	—		

健 移 発 0 1 2 1 第 1 号
令 和 2 年 1 月 2 1 日

都 道 府 県
保健所設置市
特 別 区
衛生主管部 (局) 長 殿

厚生労働省健康局難病対策課
移植医療対策推進室長
(公 印 省 略)

都道府県等における骨髄バンク推進連絡協議会の設置等について (依頼)

骨髄バンク事業の推進につきましては、平素より御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

非血縁者間の造血幹細胞の提供につきましては、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」(平成 24 年法律第 90 号)及び「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進を図るための基本的な方針」(平成 28 年厚生労働省告示第 7 号。以下「基本方針」という。)に基づいて実施されているところです。

基本方針第四の一「関係者の連携」においては、「国、地方公共団体、骨髄・末梢造血幹細胞提供あっせん事業者、臍帯血供給事業者、造血幹細胞提供支援機関及び医療関係者は、場合に応じてボランティア等の協力も得つつ、移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進を図るため、相互に連携を図りながら協力する」とされています(別添参照)。

これを踏まえ、公益財団法人日本骨髄バンクにおいては、各地方公共団体における骨髄バンク推進連絡協議会(以下「協議会」という。)の設置を推進している他、一部の地方公共団体においては、協議会を設置し定期的に開催することで、各地域における造血幹細胞移植の関係者間において円滑な意思疎通を図るとともに骨髄等移植に必要なドナー登録会を積極的に開催いただいているところ、全体としてドナー登録者の増加が認められております。令和元年 11 月に開催した第 58 回厚生科学審議会疾病対策部造血幹細胞移植委員会においても、協議会の設置を更に推進することについて、積極的な意見をいただいたところです。

つきましては、各地方公共団体におかれては、その趣旨を踏まえ、引き続き、協議会の設置及び定期的な開催について御理解いただき、骨髄バンク事業の更なる推進について、引き続きの御配慮をお願いします。

骨髄バンク推進月間における取組事例

1. テレビ・ラジオ・広報誌等による広報

テレビ・ラジオ・新聞・広報誌・HPの他に、庁舎に設置された電光掲示板、メールマガジン、各自治体のツイッター・フェイスブック・ライン等のSNSの利用も多い

2. ポスター・パンフレット等の配布

【主な配布・掲載先】

- ・ 庁舎（県庁、市役所、保健所 等）
- ・ 保有施設（図書館、公民館、体育館、文化会館 等）
- ・ 関係団体（医師会、交通安全協会、青年会議所、商工会議所 等）
- ・ 教育機関（高校、専門学校、大学 等）
- ・ 医療機関（病院 等）
- ・ 交通機関（駅、道の駅、電車 等）
- ・ 報道機関（テレビ局 等）
- ・ 協力企業（銀行、スーパー、コンビニエンスストア、大型商業施設 等）
- ・ その他（イベント会場、献血ルーム、ドナー登録会、街頭活動 等）

【その他グッズ】

ポケットティッシュ、ウエットティッシュ、ボールペン、メモ帳、クリアファイル
絆創膏、胸章、マスクケース、カイロ、水切りネット、バンダナ

実際の自治体取組事例

【富山県】 SNSを通じた広報

県の公式ツイッターに、日本骨髄バンクの応援メッセージ「ツナガル、イノチ。」のリンクを投稿した



【お知らせ】

10月は#骨髄バンク推進月間！
白血病等の患者さんを救うためには
骨髄移植が有効とされています。
多くの命をつなげるため、ドナー登録
にご協力をお願いします！
登録はマリエ献血ルームや各厚生セ
ンターで受け付けています。
骨髄バンク応援メッセージ↓

(公財)日本骨髄バンク @JMDDP1... · 2020/09/17

9月19日(土)世界骨髄バンクドナーデーに先駆け公開
します！応援メッセージ動画「ツナガル、イノチ。」
コロナ禍でもつなぐことができる命や希望があること
を伝えます🌸まずは1分半バージョンをご覧ください！

#骨髄バンク #WMDD2020 #ThankYouDonor

【秋田県】 オリジナルグッズの配布

湯沢保健所において、骨髄バンクドナー登録を呼び
かけるオリジナルティッシュの配布を実施した



【香川県】 ことでんラッピング電車

高松琴平電気鉄道(ことでん)琴平線にて、骨髄バンク
ドナー登録を呼びかけるラッピング電車を走行させた



骨髄バンクのデータ・登録会・講演会・広報資材に関するお問い合わせ

●骨髄バンクに関するデータがほしい

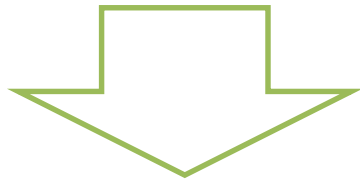
- ・ドナー支援制度(ドナー助成金制度やドナー特別休暇など)を検討するにあたって、提供者数等のデータがほしい
- ・資料やチラシ・リーフレットを作成するのでデータが必要

●ドナー登録会を開催したい

- ・ドナー登録会開催方法について知りたい
- ・説明員の養成研修会を開きたい
- ・パンフレットやポスター等の広報資材がほしい

●講演会やイベントを開きたい

- ・移植経験者や提供ドナーさんを紹介してほしい
- ・広報資材(パネルや横断幕、ノボリ等)を借りたい



日本骨髄バンク 広報渉外部

TEL: 03-5280-1789



▲パンフレット「チャンス」



▲リーフレット「ギフトオブライフ」

-参考- 「骨髄バンク普及啓発資材一覧」 https://www.jmdp.or.jp/volunteer/goods_list/

令和2年度からの拠点病院事業の具体的な取組

初年度

指名、業務委託



造血幹細胞移植推進拠点病院

造血幹細胞移植推進地域拠点病院

※地域拠点病院の数は各拠点病院の裁量に任せる

各ブロック内での人材育成や地域連携における課題などを評価し、解決に向けた事業計画書を、地域拠点病院と相談して策定し、厚生労働省への公募申請時に提出

選定・評価会議で審議

・原則、現在のブロックを前提とするが、計画書をもとに、拠点病院の配置数を決定。
・計画書をもとに、各拠点病院における予算の配分を検討。

造血幹細胞移植委員会へ報告

人材育成事業

連携

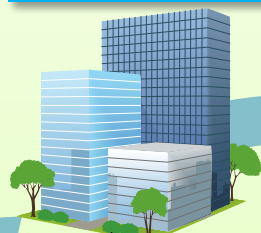


日本造血細胞移植学会



- **ブロック内での人材不足の抽出**
- 診療支援等の人材派遣
- 学会と連携した人材育成（セミナー開催を含む）
⇒ そして地域へ還元

造血幹細胞移植推進拠点病院



地域全体の情報の収集と共有



造血幹細胞移植推進地域拠点病院（拠点病院が指名）

コーディネータ支援事業

連携



日本骨髄バンク



現在までのコーディネータ期間短縮に向けた取組の継続と強化

- 骨髄バンクとの連携構築
- HCTC等を活用したブロック内での採取や移植における情報共有
- 連携病院への診療支援

※特に強化を目指す

地域連携事業

連携



地域の医療機関

移植後長期フォローアップ体制の構築

- **ブロック内でのLTFU (Long Term Follow-Up) 外来設置施設の増加・共有化**
- **非専門医・診療所等も含めた地域の医療機関との連携強化**
→ 連携のために必要な知識共有のためのセミナー開催
→ **連携可能な医療機関を見える化し、関連施設での共有、患者への情報共有**
→ 地域連携センターによる地域の医療機関や患者からの相談への対応
→ 造血幹細胞移植患者手帳の普及、配布
- **移植後患者の就労相談窓口の設置**



令和2年度からの造血幹細胞移植推進拠点病院の体制について

